シリーズ山梨の駅

甲斐往来

第九回 清里駅

県内一の高原駅

昭和八年、小淵沢駅から延びる小海南線の終着として、清里駅ができました。当時、駅前には宿屋、豆腐屋、運送会社のたった三軒があるのみで、乗客は一日わずか十人程度。豊かな山林を背景に、主に木材の搬出を目的とする駅でした。

昭和十年、小海線は小淵沢駅から小諸駅まで全線が開通し、「走る日本一高原展望列車」のうたい文句とともに、全国に知られる有名路線となります。しかし清里が輝く時代はまだ遠く、その歴史は、辛く厳しい開拓時代や、キープ協会の設立と清泉寮の建設、手探りで行われた酪農への取り組みなど、多くの先人による努力を経なければなりません。

日本を代表する避暑地となった昭和五十年代には、若い女性を中心に、年間二十五万人もの乗降客が利用した清里駅。往時の賑わいこそありませんが、清里駅には、当時このホームに降り立った若者たちが、ふたたび戻ってきているといいます。駅のホームに設けられた八ケ岳を模す箱庭は、現在の落着いた清里の魅力を象徴しているかのようです。

開拓と観光。二つの時代を見守ってきた清里駅は、今もまた新しい歴史を刻んでいます。

知事から一言

山梨県知事 山本 栄彦

4月29日の「みどりの日」に、南アルプス市の「県民の森」で開催された「県民緑化まつり」に参加し、緑の少年少女隊をはじめ大勢の皆さんと一緒に植樹を行いました。

植樹会場周辺はよく手入れがされ、森林と湖が織り成す気持ちのいいたたずまいでした。県民の憩いの場として、また、県外の都市住民との交流の場として、この森を大いに活用していきたいと思います。

「水と空気の時代」といわれる21世紀において、本県の森林資源は貴重な財産であり、この資源を保全・育成し、次代に引き継いでいくことは私たちに課せられた大きな使命だと思います。

このため、県では県内各地域での「100万本植樹運動」や里山の整備など、さまざまな取り組みを行っています。また、下流域の住民ボランティアによる水源林の植樹活動や、企業の社会貢献活動の一環としての植樹が展開されていることはうれしい限りです。

地域住民や企業・NPOとの協働による森林整備など多様な取り組みを積極的に展開して豊かな緑づくりを進め、全国に誇ることのできる「森の国・水の国やまなし」を目指していきたいと考えています。

（特集2「森の国 水の国 やまなし」は8ページ）

ふれあい やまなし県政だより ［特集号］ vol.9 目次

2 シリーズ山梨の駅―甲斐往来「第9回 清里駅」
3 知事から一言
4 特集1 充実する子育て支援
8 特集2 森の国 水の国 やまなし
12 山梨県市町村合併推進構想
14 甲州文化再見「第2回 林―安定的な生活基盤」
16 山梨の旧道を訪ねて「北杜市／甲州街道（台ヶ原宿）」
18 甲斐のひと、インタビュー「百鬼丸 さん」
20 トピックス「中部横断自動車道」
22 県政フラッシュ
◆ 地産地消―おいしい山梨再発見「スイートコーン 優作」